



はかり一筋360年 独自路線で大手と差別化



岩手県・大船渡魚市場に入ったフォークリフト。フォークの付根部分に守随本店のロゴが装着されている

江戸幕府の「秤座」から分かれ、尾張徳川家の要職を務めたはかり製造の老舗企業。高度成長期に早くも量産・価格競争と一線を画し、独自路線で業界ナンバーワンの製品をいくつも所有する。伝統を守りつつ、強みを生かして海外への進出も視野に入れる。
(編集部)



運転席に重さを表示するタイプや、無線で測定データを送信するタイプがある

江戸時代、貨幣を扱う金座、銀座と並ぶ重要な座として、はかりの製造、頒布、修繕などを独占する「秤座」が作られた。ここで東国の秤を支配したのが守随氏だ。

江戸が明暦の大火に包まれた翌年、1658年は全国的にはかりが供給不足となり、困った尾張徳川家の要請で守随家が分家し、尾張はかり座が創設された。これが守随本店の興りだ。その歴史は約360年にもおよぶ。

第二次世界大戦の空襲で、工場、営業所とも焼失した同社だが、当主の縁者に当たる故・早川登氏が戦地から帰

還した社員を集めて再興への道を歩み始める。未亡人の守随かず氏が15代当主を努め、後継者がなかったことから早川登氏とその長男、静英氏が昭和、平成と守随本店の経営を担ってきた。そして今年9月、静英氏の次男である亘氏が社長に就任し、今後は若い世代への事業承継を進めていく。

価格競争を避け、独自路線へ

老舗らしく堅実な経営を続けてきた守随本店が転換期を迎えたのは、大手メーカーが量産品の台はかりを市場に投入した高度成長時代のころ。価格競

争では経営が疲弊するとみて、大手が手を出しにくい、独自路線にシフト。いくつかのヒット商品を生み出した。

例えば、あらかじめブレンド比率を入力すると、その比率で複数種類のコーヒー豆を自動計量して、混ぜ合わせる装置。コーヒー業界にまたたく間に普及した。また、大豆ペーストなどの原料の投入量に合わせて塩を正確に測って混ぜる装置は、味噌、しょうゆなどの醸造メーカーから、酒造会社に至るまで幅広く採用された。いずれも、顧客企業の現場に深く関わることで開発することができたという。

守隨本店

会社概要 ●株式会社守隨本店:1658年創業、1948年会社設立。江戸時代の「秤座」に発し、はかり製造一筋360年の歴史を持つ。大手メーカーの量産品とは一線を画し、フォークリフト用やトラック用など、業務用の独自開発製品に強みを持つ。海外進出も視野に入れる。売上高約6億円、従業員35名。本社:名古屋市中川区福川町3-1 TEL052-361-1511 <http://www.shuzui.jp/>

耐水・耐蝕性に優れた「クリーンメイト」など、過酷な環境で使える吊りはかりを多数開発している



この独自開発路線をさらに徹底させたのが、早川静英会長だ。若い頃、顧客企業に見積書を出した際、自信があったにも関わらず、最低価格を提示した業者に発注された。「ガツンと拳をくらわされたようにショックだった」と当時を振り返る早川会長は、それ以来「他社の作らないもの、手をつけないものを作ろう」という想いをずっと持ってきた。

その想いを具現化した代表的な商品が、荷物を運びながら重さを測定できるフォークリフト用はかり「マーキュリー」だ。荷物を乗せたパレットを持ち上げたときに重さを測る。測定データを無線でパソコンなどへ送信するタイプもある。漁港の魚市場や配送センターなどで順調に普及している。

また吊りはかりでは、様々な極限環境に対応するはかりを開発した。例えば、耐水・耐蝕性が高いステンレス製の「コスモクリーンメイト」は漁港などの錆が付きやすい環境向け。1600度の金属溶湯の上でも正確な測定が可能な「コロナ7」は、鉄鋼・非鉄金属メーカーの工場向け。それぞれニッチな分野だが、同社が独占的に供給している商品は多い。

最近では、充電式のハンドパレットスケール（はかり付きの手動式リフト）が、電源を確保しづらい農作業の現場で便利だということで、農家向けのヒット商品になった。

共通しているのは「はかるモノを

持つてくるのではなく、モノのあるところへ、はかりを持っていき顧客の利便性を高める」ということ。この移動式はかりの分野で「顧客の悩みをしつかりと聞き取り、解決できる商品を今後も開発していく」と早川会長は言う。

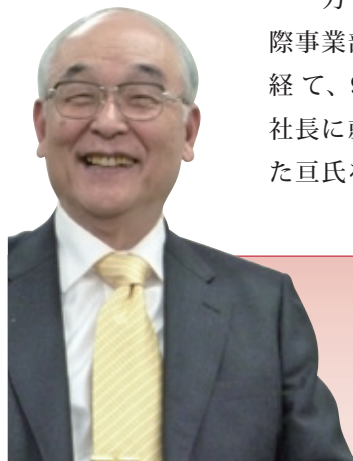
ベトナムとの交流を開始

一方で、国際事業部長を経て、9月に社長に就任した亘氏を中心

に、海外展開にも本腰を入れる。

既に韓国や台湾企業とは長年、密接な関係を築いているが、今、注目しているのがベトナム。研修生を受け入れ、人脈づくりを進めている。まず部品の生産拠点として現地企業との取り組みを始め、その先には現地に進出する国内製造業への営業拠点を増やすことも視野に入れている。

2020年に売上高8億円を目標に掲げ、国内、海外とも営業拠点を増やしていく。独自開発製品を武器に攻めの経営を貫く。



守隨本店 代表取締役会長
早川 静英氏

はやかわ・せいえい 1935年、愛知県生まれ。早稲田大学政経学部を卒業後、守隨本店に入社。89年、社長就任。2016年、会長に。独自開発路線による大手との差別化経営を確立した。長女は守隨家の養子に入っている

トップの思い

歴史を守るの は 継いだものの使命

若い頃、入社して間もなく見積書を顧客に提出したら、「5社の中で3番目に高かったよ」と言われ、一番安いところに仕事を持って行かれました。拳でガツンとくらわされた気分で、「価格の比較だけでは、いずれ競争が激しくなり商売が成り立たなくなる」と強く思いました。それ以来ずっと、価格勝負になる大量生産は考えず、ニッチな分野であってもオンリーワン、ナンバーワンであることを目指してきました。これが、独自開発路線にかじを切った大きな理由です。

実は、守隨本家の歴史をさらに遡ると、戦国時代の甲斐武田家に仕えた吉川氏にたどり着きます。武田信玄が領内のはかりの専売権を初代・吉川守隨に与え、武田家滅亡後、その子孫が守隨姓を名乗り徳川家康の傘下に入って、共に江戸へ移ったという伝承です。ここから数えれば440年。由緒ある「守隨の秤」をこれからも繁栄させていくのが継いだものの使命と考えています。(談)